

## 平成 26 年度長野県立病院機構の決算状況

地方独立行政法人長野県立病院機構

## ●平成 26 年度の経常損益は、6,955 万 5 千円の損失

➤患者数は減少したものの、医業収益は前年並みを確保

## 1 延患者数の状況

入院患者数は 24 万 2,545 人で、前年度比△6,708 人、2.7%の減少となりました。

外来患者数は 40 万 5,863 人で、前年度比△2,533 人、0.6%の減少となりました。

## 2 損益の状況

経常収益は 226 億 555 万 7 千円で、前年度に比べ 7,243 万 3 千円、0.3%の増加となりました。

医業収益は 164 億 5,788 万 2 千円で、診療機能の拡充により入院収益は増加したものの、外来収益は患者の減から減少し、合計で前年度比 236 万円、0.01%の減少となりました。

経常費用は、診療機能の拡充等による給与費の増加や消費税率の引き上げによる影響で増加した一方、診療材料や修繕費、委託料などを圧縮したことから、合計で前年度比 1 億 5,558 万 1 千円、0.7%の増加に止めました。

この結果、経常損益は、前年度を 8,314 万 8 千円下回り、6,955 万 5 千円の損失となりました。

なお、木曾病院における看護師宿舍の改築に伴う解体費用として、臨時損失 333 万円を計上したため、当期純損益は 7,288 万 5 千円の損失となりました。

## 【機構全体及び各病院の損益の状況】

(単位：百万円)

科 目	機構全体	須坂	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看学	本部
経常収益	22,606	6,054	2,044	1,478	4,358	7,888	506	95	182
医業収益	16,458	4,839	1,421	895	3,473	5,830			
うち入院収益	11,669	3,295	945	487	1,982	4,960			
うち外来収益	4,366	1,316	467	362	1,386	835			
うち公衆衛生活動収益等	423	228	10	46	105	35			
老健、看護、本部収益	415						405	10	
運営費負担金収益	5,172	1,134	550	542	798	1,822	101	72	153
その他経常収益	561	81	74	41	87	236	0	13	29
経常費用	22,675	6,186	2,063	1,654	4,270	7,591	489	121	301
医業費用	20,662	5,867	1,974	1,596	4,039	7,186			
うち給与費	11,432	3,167	1,284	869	2,140	3,971			
うち材料費	3,782	1,149	276	163	914	1,281			
うち減価償却費	2,346	670	180	274	353	868			
うち経費	3,023	865	227	285	617	1,029			
老健、看護、本部費用	855						438	120	297
その他経常費用	1,158	319	89	58	231	405	51	1	4
経常損益	▲ 70	▲ 132	▲ 19	▲ 177	88	297	16	▲ 26	▲ 119
臨時損益	▲ 3				▲ 3				
当期純損益	▲ 73	▲ 132	▲ 19	▲ 177	85	297	16	▲ 26	▲ 119

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

# 平成26年度長野県立病院機構の決算について

長野県立病院機構本部

## 1 概要

- 経常収益：226億555万7千円（前年度比、+7,243万3千円）
  - ・患者の減少等はあるものの医業収益は前年並みを確保  
患者数（入院+外来）はこころの医療センター駒ヶ根を除き減少  
入院単価は須坂病院を除き増加、外来単価は阿南及びこども病院を除き増加
  - ・信州木曽看護専門学校の開校に伴い運営費負担金+7,220万1千円を計上
- 経常費用：226億7,511万2千円（前年度比、+1億5,558万1千円）
  - ・診療機能の拡充による人員の増等により人件費が増加
  - ・消費税率の引き上げにより控除対象外消費税が増加
  - ・機構全体での経費削減の取組みにより経費が減少
  - ・院外処方せんへの移行等により診療材料費等が減少
  - ・高額医療機器の償却が終了したことにより減価償却費が減少
- ◎ 経常損益：6,955万5千円の損失（前年度比、▲8,314万8千円）
  - ・経常収益の減少が費用の減少を上回り今年度の年度計画は未達成
  - ・須坂病院では、平成27年4月に向けた診療体制の変更に伴い外科手術が減少したことなどにより損失を計上
  - ・こども病院はDPC（診断群分類包括評価）病院へ移行したことから入院単価が大幅に増加し利益が拡大
- ◎ 当期純損益：7,288万5千円の損失（前年度比、▲2,598万4千円）  
木曽病院の看護師宿舎改築に伴う解体費用として臨時損益▲3,330千円を計上

## 2 損益の状況

### (1) 全体

(単位：千円)

科 目	平成26年度	平成25年度	平成26年度計画	増減(26-25)	増減(決算-計画)
<b>経常収益 (ア)</b>	<b>22,605,557</b>	<b>22,533,124</b>	<b>23,039,835</b>	<b>72,433</b>	<b>▲ 434,278</b>
医業収益	16,457,882	16,460,242	16,902,303	▲ 2,360	▲ 444,421
うち入院収益	11,669,226	11,615,566	12,162,740	53,661	▲ 493,514
うち外来収益	4,366,124	4,417,641	4,338,824	▲ 51,518	27,300
うち公衆衛生活動収益等	422,532	427,035	400,739	▲ 4,503	21,793
介護老人保健施設収益	404,711	405,158	415,570	▲ 447	▲ 10,859
看護師養成所収益	10,143		8,226	10,143	1,917
運営費負担金収益	5,172,201	5,100,000	5,172,201	72,201	0
その他経常収益	560,621	567,724	549,761	▲ 7,104	10,860
<b>経常費用 (イ)</b>	<b>22,675,112</b>	<b>22,519,532</b>	<b>22,916,697</b>	<b>155,581</b>	<b>▲ 241,585</b>
医業費用	20,662,154	20,695,392	20,812,683	▲ 33,238	▲ 150,529
うち給与費	11,431,615	11,028,992	11,325,464	402,623	106,151
うち材料費	3,781,632	4,125,432	3,885,262	▲ 343,801	▲ 103,630
うち減価償却費	2,345,563	2,395,349	2,320,574	▲ 49,786	24,989
うち経費	3,023,446	3,061,519	3,170,015	▲ 38,073	▲ 146,569
介護老人保健施設費用	438,113	427,066	453,879	11,048	▲ 15,766
看護師養成所費用	119,593		132,858	119,593	▲ 13,265
一般管理費	297,398	368,542	320,791	▲ 71,143	▲ 23,393
財務費用（支払利息）	582,626	614,707	596,482	▲ 32,082	▲ 13,856
その他経常費用	575,228	413,825	732,862	161,403	▲ 157,634
<b>経常損益 (ア-イ)</b>	<b>▲ 69,555</b>	<b>13,592</b>	<b>123,138</b>	<b>▲ 83,148</b>	<b>▲ 192,693</b>
臨時損益 (ウ)	▲ 3,330	▲ 60,494	▲ 22,708	57,164	19,378
<b>当期純損益 (ア-イ+ウ)</b>	<b>▲ 72,885</b>	<b>▲ 46,902</b>	<b>100,430</b>	<b>▲ 25,984</b>	<b>▲ 173,315</b>

## (2) 病院別

- 須坂病院:平成27年4月に向けた外科チームの体制変更により外科手術が減少したことなどにより前年度に比べ大幅な損失を計上
- こころの医療センター駒ヶ根:患者数及び診療単価の増により損失幅を圧縮
- 阿南病院:新病院の完成による減価償却費の増等により損失幅が拡大
- 木曽病院:16年連続で利益を計上するも患者の減少等から利益幅が縮小
- こども病院: D P C病院への移行により入院単価が増加し利益幅が大幅に拡大

(単位:千円)

区分	須坂	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健	看護学校	本部	計
経常収益 (前年度比)	6,054,121 96.4%	2,044,368 107.9%	1,477,758 94.5%	4,358,267 98.2%	7,888,221 103.4%	505,577 99.9%	94,945 -	182,300 80.6%	22,605,557 100.3%
経常費用 (前年度比)	6,185,680 99.9%	2,063,120 105.0%	1,654,310 98.2%	4,269,813 100.8%	7,591,319 100.0%	489,198 102.2%	120,712 -	300,961 80.7%	22,675,112 100.7%
経常損益 (前年度差)	▲ 131,559 △ 218,133	▲ 18,751 52,686	▲ 176,552 △ 55,607	88,454 △ 114,503	296,902 261,277	16,379 △ 10,997	▲ 25,767 △ 25,767	▲ 118,660 27,898	▲ 69,555 △ 83,148
純損益 (前年度差)	▲ 131,559 △ 218,133	▲ 18,751 71,928	▲ 176,552 △ 21,701	85,124 △ 110,486	296,902 261,277	16,379 △ 10,997	▲ 25,767 △ 25,767	▲ 118,660 27,898	▲ 72,885 △ 25,984

## 3 延患者数の状況

### (1) 入院患者数

- 須坂病院:内科、整形外科等は増加したが、外科や常勤医師が不在となった泌尿器科が著しく減少
- こころの医療センター駒ヶ根:依存症患者の増等により増加
- 阿南病院:整形外科の常勤医配置により増加したが、外科医の年度中途退職等により減少
- 木曽病院:リハビリ科常勤医師の減や内科医師の産休等により減少
- こども病院:総合小児や脳神経外科、泌尿器科では増加

入院患者数	H26実績	H25実績	H26-H25
全体	242,545人	249,253人	△ 6,708 (97.3%)
須坂	83,341人	84,497人	△ 1,156 (98.6%)
駒ヶ根	34,159人	33,151人	1,008 (103.0%)
阿南	17,780人	18,373人	△ 593 (96.8%)
木曽	54,196人	58,605人	△ 4,409 (92.5%)
こども	53,069人	54,627人	△ 1,558 (97.1%)

### (2) 外来患者数

- 須坂病院:透析等は増加したが、外科や常勤医師が不在となった泌尿器科で著しく減少
- こころの医療センター駒ヶ根:ストレス関連障害等の患者増により増加
- 阿南病院:透析患者の増等により増加
- 木曽病院:内科医師の産休や整形外科医師の異動などにより減少
- こども病院:眼科医の常勤化等により増加

外来患者数	H26実績	H25実績	H26-H25
全体	405,863人	408,396人	△ 2,533 (99.4%)
須坂	119,139人	125,720人	△ 6,581 (94.8%)
駒ヶ根	39,575人	38,343人	1,232 (103.2%)
阿南	51,418人	50,340人	1,078 (102.1%)
木曽	136,302人	138,594人	△ 2,292 (98.3%)
こども	59,429人	55,399人	4,030 (107.3%)

#### 4 患者1人1日当たりの診療単価の状況

- 須坂病院：高度な外科手術数の減等により入院単価は減少
- こころの医療センター駒ヶ根：機能強化による新規施設基準届出等により入院・外来ともに増加
- 阿南病院：短期滞在手術基本料の算定やリハビリ件数の増により入院単価は増加  
院外処方の実施により外来単価は減少
- 木曽病院：入院及び外来単価とも増加
- こども病院：DPC対象病院への移行により入院単価が大幅に増加

#### ア 入院患者

	H26	H25	H26－H25
須坂	39,538円	41,282円	▲ 1,744円 (95.8%)
駒ヶ根	27,653円	25,632円	2,021円 (107.9%)
阿南	27,404円	26,395円	1,009円 (103.8%)
木曽	36,570円	35,247円	1,323円 (103.8%)
こども	93,468円	86,532円	6,936円 (108.0%)

#### イ 外来患者

	H26	H25	H26－H25
須坂	11,046円	10,780円	266円 (102.5%)
駒ヶ根	11,788円	11,714円	74円 (100.6%)
阿南	7,042円	8,499円	▲ 1,457円 (82.9%)
木曽	10,170円	10,006円	164円 (101.6%)
こども	14,055円	14,416円	▲ 361円 (97.5%)

### 5 主な取組事項

#### (1) 須坂病院

- **5病院の中核病院として、人材育成と感染症医療をリード**
  - ・エボラ出血熱患者受入訓練の実施など、感染症指定医療機関としての機能を維持
  - ・専門外来の実施（延患者数 25年度：1,231人 → 26年度：1,332人）  
ピロリ菌専門外来、肝臓外来、海外渡航者外来、スキンケア外来、非結核性抗酸菌症専門外来
  - ・感染症やがん等に伴う口腔合併症対策等のため歯科口腔外科を開設（10月～入院91人、外来1,700人）
  - ・がんの早期発見早期治療を行うため、内視鏡検査の積極的な実施（検査：5,917件、治療：634件）
  - ・病診連携と在宅移行のため、8月から地域包括ケア病棟の開設（延患者数7,346人（約30人/日））
  - ・在宅医療の充実  
訪問診療120件、訪問リハビリ1,294単位、訪問看護2,161件、看取りを含む136件の緊急事態に対応

#### (2) こころの医療センター駒ヶ根

- **救急・急性期に対応できる専門性の高い『精神科総合病院』**
  - ・県内唯一の常時対応型施設として24時間体制で県下全域からの救急対応を行うほか、アルコール依存症や薬物依存症患者等を積極的に受け入れ
  - ・薬物療法のみでは効果が低い患者に治療効果の高いmECT治療（修正型電気けいれん療法）の実施
  - ・認知症患者の地域生活を支援するため、駒ヶ根市と協働で訪問支援を実施（訪問件数30件）
  - ・デイケアや訪問看護等による地域生活支援により低い平均在院日数を維持  
（26年度：69.7日 25年度全国平均：284.7日）
  - ・県内初となる児童精神科専門病棟を有し、学校関係者等と連携する支援会議を開催
  - ・御嶽山噴火災害時に「こころのケアチーム」を派遣

#### (3) 阿南病院

- **地域住民の暮らしと絆を支え、地域に寄り添った医療の提供**
  - ・地域医療総合支援センターの設置による公衆衛生活動の充実や認知症に対する取組の強化  
健康管理センター、へき地医療研修センター、認知症なんでも相談室
  - ・常勤整形外科医の配置（入院患者数 25年度：0件 → 26年度：2,006件）
  - ・透析患者の増加に対応（25年度：2,453件 → 26年度：3,034件）
  - ・院外処方せん発行へ移行・病棟での服薬指導を充実（25年度：87件 → 26年度：291件）
  - ・へき地巡回診療（阿南町鈴ヶ沢、日吉 のべ52回/年）や在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハ）の充実（25年度：2,654件 → 26年度：2,764件）
  - ・阿南町が運用する医療介護連携ネットワークに参画  
在宅見守システム（EIR）やTV会議システム（Slus）の運用を開始

#### (4) 木曾病院

- **木曾地域唯一の病院として、地域完結型医療を提供**
  - ・災害拠点病院として御嶽山噴火災害に対応（DMAT 1 隊を派遣、被災者61人を受入・診療）
  - ・透析の体制を拡充（透析病床を2床増床し登録患者数80人に対応）
  - ・豊かな自然観光資源を活用した森林セラピーや木曾路の森セラピードックの実施
  - ・がん診療について信州大学医学部附属病院、脳血管診療について上伊那医療圏の病院と連携  
→8月から緩和ケア外来を開設。今後地域がん診療病院の取得を目指す。
  - ・訪問診療・訪問看護の診療科に小児科を増やして5科で実施。訪問リハビリを2人から4人体制に拡充（訪問診療 25年度：659件→26年度：742件、訪問看護 25年度：3,217件→26年度：3,533件、訪問リハビリ25年度：1,607件 → 26年度：2,201件）
  - ・へき地巡回診療の実施（上松町高倉・台、西奥 のべ24回/年）

#### (5) こども病院

- **高度小児医療・救急救命医療を提供する県内唯一の小児専門病院**
  - ・24時間救急医療体制の維持（救急患者受入 H25:4,312人 → H26：4,269人）
  - ・病院間連携及び搬送事業体制の充実・強化のため、ドクターカーに加えてH25年度末に「コンパクトドクターカー」を新たに導入（出動回数 H25:423回 → H26：512回）
  - ・診療体制の充実
    - 先天性心疾患の術後成人患者への継続的な診療を行う「成人先天性心疾患専門外来」を開設（専門外来患者数：51人）
    - 眼科医を常勤化
    - タンデマス法による先天性代謝異常検査（初回検査17,570件、再検査1,147件）  
要精検：40例、先天性甲状腺機能低下症18例に遺伝カウンセリング等を実施
    - アレルギー科医師を配置し専門外来の開設と専門診療チームを結成
  - ・PICU（小児集中治療室）の充実のための検討
    - こども病院PICUの病床不足を解消するため、PICU増床に向けて基本計画を策定
  - ・小児在宅医療を推進する「しらくまネットワーク（電子手帳による関係者の情報共有）」を運用
  - ・チャイルドライフスペシャリストや医療メディエーターによる患者の心的負担軽減

#### (6) 機構全体

- 第2期中期計画の作成
  - ・医療機能の分化・連携や在宅医療への対応を進め、地域医療、高度・専門医療を推進
  - ・信州型総合医の養成や研修機能の充実により県内医療に貢献する人材を育成
- 確実な「データ分析力」に裏打ちされた経営力の向上
  - 医薬品のベンチマークを活用した値引率の向上や診療材料費・委託料の見直し等により経費を削減
- 県内医療機関や県民との協働と積極的なコミュニケーションの推進
  - 県民向けの公開講座を開催（全15回開催、参加者計1,178名）
- 創造的な人材確保・育成策の展開
  - ・医療従事者の確保に向けた取組を強化
    - 医師 信州大学医学部との連携、医師研究資金貸与制度の活用
    - 看護師 大学・短大・専門学校等への訪問、年3回の採用選考試験を実施（中途採用者1名、4月採用者58名を採用）
  - ・4月に信州木曾看護専門学校が開校し、1期生33名が入学
- 内部監査の実施によるリスク管理
  - 「情報セキュリティ」をテーマとした内部監査を実施